





言葉、写真を徒然に残していく。。

雲の様に歪なカタチの言葉たちが、あなたの心に届きます様に。。

待ってる。。



待ってるよ。
君の 気持ち。

いつも いつまでも
変わらない 此処(ココ)で。。

準備物。



この先には どんな世界が待っているかな..?

必要なのは
飛び込んでいく足だけ..。

イビツな言ノ葉。



雲のように
まだまだイビツなボクの言ノ葉。

けれど

いつか 立派なカタチになるだろうか…。
いつか 君を癒せるチカラを持つだろうか…。

そうして
今日も 僕は 音を奏デル。

伸びてく想い。



まっすぐの伸びた
たくさんの キモチ。
たくさんの ココロ。

そのまっすぐに伸びた想いは
どこまでも どこまでも 伸びて伸びて..
やがて どこまでも天穹(そら)に近付いていく..。



僕の辿った軌跡は

何時か

誰かの希望(ひかり)になるのだろうか・・・？



不安定な僕等の感情。

どこまでもユラユラとただよっては
消えそうになるのを必死にこらえる。

けれど そこにある感情は
何よりも強く確かなんだ…。

優しい雨につつまれて…。



今にも空が泣き出しそうに見えるのは

僕が泣き出したいからなのかな？

願わくば

空の涙と一緒に 僕のココロも・・・。



雨の上がった青い空に
小さな小さな虹が架かる..

この虹の果てに

僕等の夢が 求める答えが
あるのだろうか..?

大丈夫..



大丈夫。

ちゃんと 見守っ(み)てるから・・

大丈夫。

ちゃんと 手をつないでるから・・

大丈夫。

しっかり 一歩 踏み出しておいで・・。

探し物。



君は 僕の欲しい言葉を与えてくれる。

だから

僕は誰かの力になれる言葉を
手に入れたいと思えるんだよ。



宝箱を開けるみたいに
ドキドキしながらポストを開く
そこに残された言葉(あしあと)から
少しずつ 君を見付けてゆく..

刻まれた一言一言に
一喜一憂繰り返す

色褪せた手紙
沢山の想い馳せた日々(じかん)
もう 二度とは戻らないけれど
刻まれた過去(むかし)を残す

今はもう 届かない手紙
君を想い自然と涙が溢れる
温かな時間が流れるblueの場所で
君は手紙を待つのかな？

イツカ…。



小さな小さな芽吹いた芽・・・

小さな種_(せかい)を破り生まれたこの芽は
これから沢山の恵みを受け
沢山の困難を越えてゆく。

そして

いつしか立派に花を咲かせてゆくんだ・・・。



幾千の月日が流れても
変わらないモノは きっと在る。。

あの日 貴方がくれた約束。
何時もと同じ あの場所で
何時もと同じ 貴方がいて..
そこで交わした 2人だけの約束。

進化ばかりを求める世界の中で
それだけはきっと永久(とわ)に変わらない

ほんのひと時の優しい優しい過去(じかん)

今日も あの日の約束を..
貴方の事を願いながら..

僕は そっと 眸(め)を閉じるよ。。

タクサンの色。



たくさんの色に溢れた 僕ラノ世界。

溢れるほどのたくさんの色の中で
僕は
どれだけ"自分の色"を忘れずにいられてるかな…？



心って 本当に厄介だね。

喜びも 悲しみも 不安も
時に 全てを隠そうと壁をつくる。

そして 望むんだ。

"隠されたキモチ(ほんとう)に気付いて・・・" って。



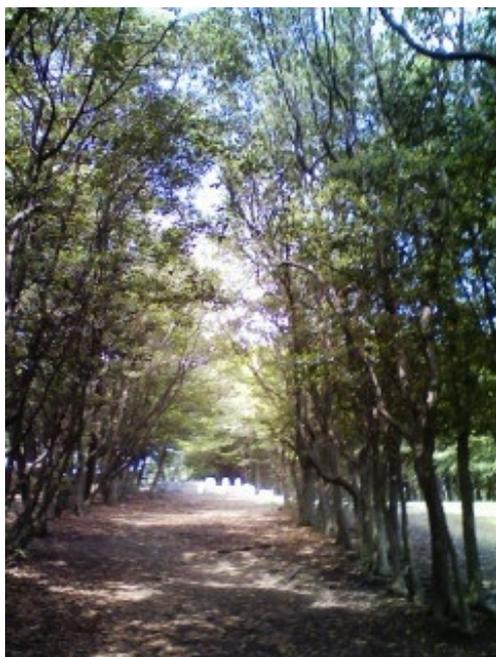
何時か
誰かに囁いた言葉が
自分の傍に優しく置いてあった。。

何時か
誰かを包んであげた温もりに
僕は包んでもらっていた。。

僕は 何時も気付かずにいただけだったんだ。

沢山の優しさが 僕の傍にある事に。。

光溢れるセカイ。

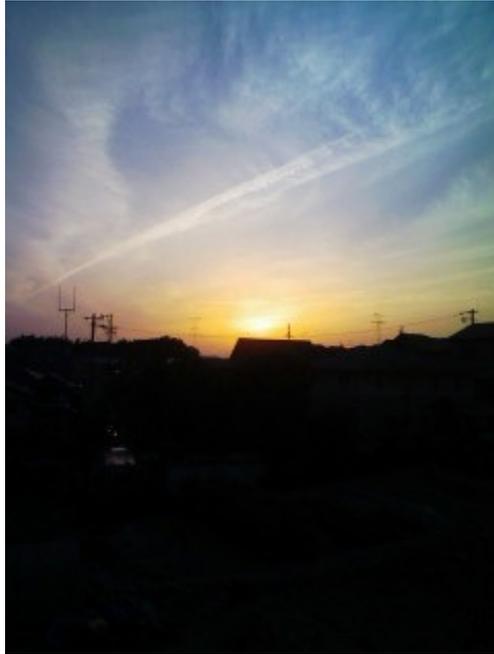


眩しいくらいの 光

目醒めた時
その光の温もりを感じられる

それって
本当は 凄く嬉しい事なんだね..。

どこまでも… どこまでも…



たくさんの願いと想いが詰まったその種は
その重さにつぶされる事無く
しっかりと 遠くまで
旅立ってゆく…。

そんな強さが 堪らなく愛おしいよ…。



人は ただ無い物ねだりで
何かを手に入れては
また新たな何かを求め始める

欲望に溢れるこの世界で

僕はどれだけの物を大切に出来るんだろう・・・？
欲望に汚れたこの両手で・・・。

wish



It is wishing always.

(いつでも願っている。)

You are merely a smiling face.

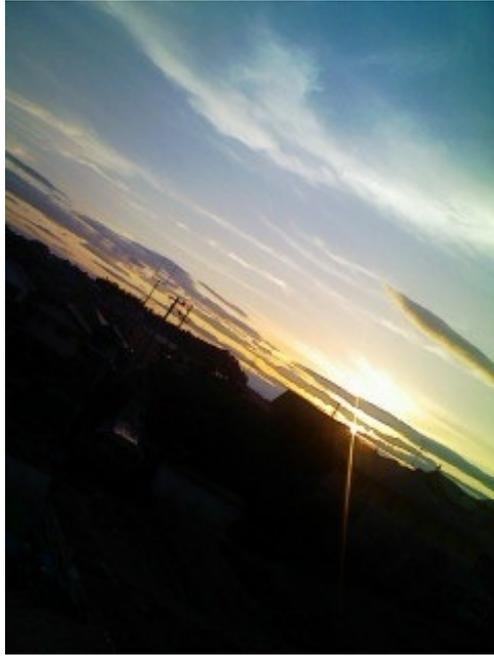
(ただ君が笑顔である事を。)

白のセカイ。



空から降りそそぐ白い粉雪のように
どこまでも真っ白な心があればいいのに・・・

永遠(とわ)の時間が約束されたように
ただ真っ白な雪の世界で・・・。



何時か 還るその場所に

きっと 君が

いてくれます様に..。

セカイノカタチ。



沢山の優しさに溢れた この世界。

沢山の思いやりで溢れた この世界。

温かいキモチに包まれて
僕のココロも
ちよつとずつ 優しさに染まってゆけ・・・

願う ココロ。



何処まで 伸びてゆこうか…。

何時まで 伸びてゆこうか…。

未知数の可能性を
そっと その芽に託して——…。



たった一つの言葉で僕の世界は色付いた。

君の言葉が降りそそぐ度に

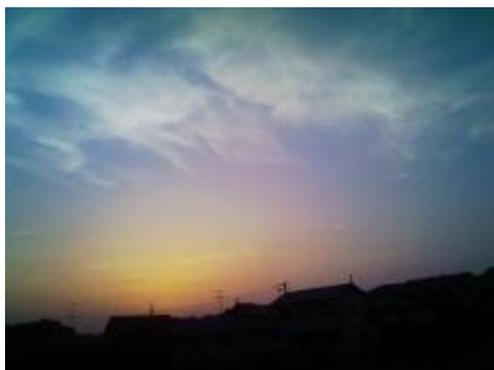
僕の世界に色が染み込んでくんだ。

同じ高さへ..



ゆっくりで良い..

君のしている世界に近付きたいんだ..



空の海をおよいでいたら

君の元に辿り着いたよ..

ねえ.. 一緒にお散歩しないかい..?

忘りたいから..



忘れてしまったつもりだった..
忘れてしまいたかった..

けれど

僕の未熟さが 僕の魂が
忘れさせてはくれない..

だから せめて 今だけは
静かな静かな夜という静寂に ゆっくりと沈ませて..。



君がくれた温かなgift

僕の心を優しい光が包み込み
言葉より大切なものを教えてくれた

君との出逢いは
きっと 沢山の三つ葉(クローバー)の中から
四つ葉(幸せ)を探し出すみたいな 穏やかな偶然(キセキ)



貴方の言葉は

不思議な位に

僕の心(なか)にあった黒い感情(キモチ)を溶かしていった。

そして

穏やかで 温かい気持ちを残してくれたんだ・・・。



たくさんの想いに包まれて

たくさんの笑顔につつまれて

心に沢山の灯がともる。

何ものにも変えがたい贈り物だよ。。

見守るよ。



たくさん たくさん つぼみをつけて

たくさん たくさんの 花を咲かせる

君の願いが ひとつずつ幸せにつながるように

君の幸せが ひとつひとつ笑顔につながるように

ただ 君のそばで 君を見てるよ。

生まれるセカイ。色付くセカイ。

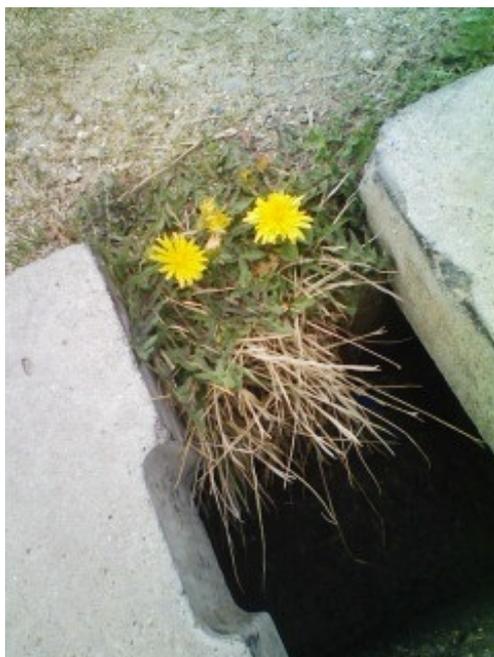


何時からだったろう・・・
君の世界に 色々な存在が生まれ始めたのは

何時からだったろう・・・
僕の世界が 色々な色に染まり始めたのは

たった二人だった世界に
たくさんのものが 生まれて しみこんでいくよ。

キミというソングイ。



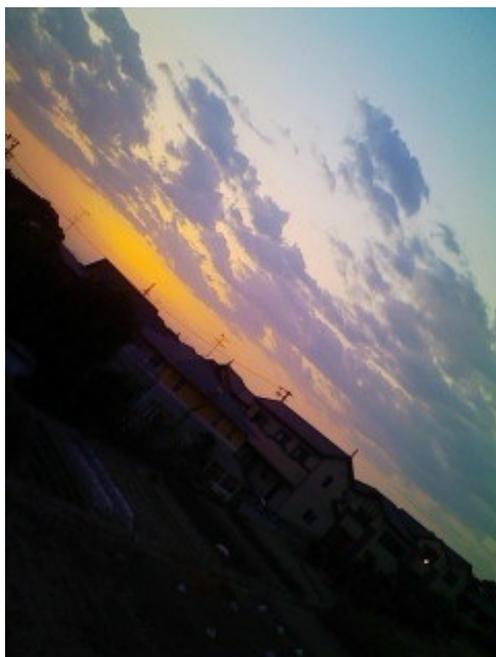
貴方の存在は
まるで 太陽だった。

貴方の纏う空気は
まるで 疾風だった。

僕の心をかき乱す..

そんな 大きな存在だったんだ..

キミとソラとボクと…。



君と見た天穹(そら)は
どこまでも 青と光で満ちていた

まるで
どこまでも純粋な キミみたいだった

だから

僕は そっと 手をつないだんだ…。

キミが 何処か遠くへ行ってしまう様…



歪な言ノ葉たちが

貴方の心に何かを残してくれたかな？

忘れないで

貴方の周りには たくさんの言ノ葉があふれている事。

貴方の中にも たくさんの言ノ葉があふれている事。

それは “透明な音”の様に
いつも 貴方を包んでるよ。

やさしく、やさしく・・・
あたたかく、あたたかく・・・